

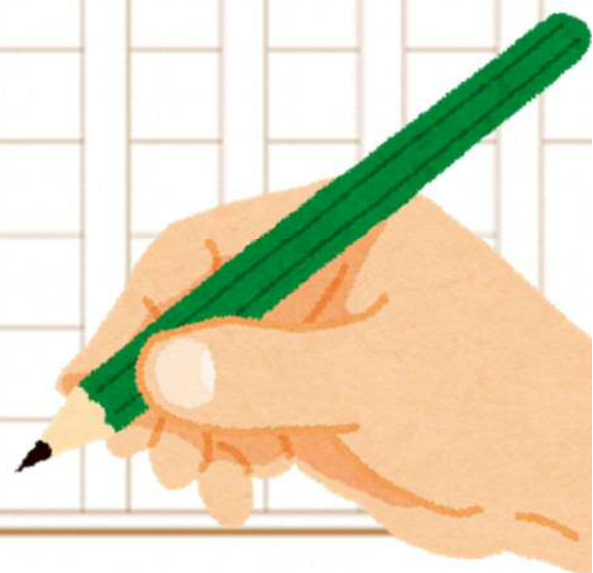
令和二年度

青少年の健全育成に関する

作文コンクール作品集

川口市青少年保護育成本部

川口市教育委員会



目次

へ最優秀賞へ

日本のこたつ

里小学校

四年

村松 名月

2

「マナー意識の欠如」が引き起こす弊害

青木中学校

三年

小林 滉典

4

へ優秀賞へ

日本の美しさ

元郷小学校

四年

池田 楓花

8

小さな幸せ

戸塚小学校

六年

森 好花

10

本と共に

里小学校

六年

池田 彩夏

12

大切な時間

里小学校

六年

広瀬 柚

14

大人になるための鍵

青木中学校

二年

熊谷 朋紀

16

マナーは守るべきもの

青木中学校

三年

小暮 真尋

18

へ入選

ぼくのメダカたち	元郷小学校	五年	内藤 由喜	22
日本の花火	十二月田小学校	四年	竹道 怜菜	24
美しい音と小さな希望	十二月田小学校	五年	加藤 利彩	26
本への入り口	十二月田小学校	六年	高野 晃輔	28
日本の環境と多くの固有種	里小学校	五年	和田 奏	30
好きな時間で気づいた事	南鳩ヶ谷小学校	四年	谷口 香穂	32
「物をつくる時間が好き」	南鳩ヶ谷小学校	六年	藤岡 美杜	34
私から始まるマナーの輪	南中学校	一年	山崎 杏	36
世界の人々が笑顔で過ごすためにも	青木中学校	一年	春山 桜和香	38
助け合いの大切さ	元郷中学校	三年	黒川 ほのか	40

へ佳作
▼

日本の文化と日本語

十二月田小学校

六年

桑野 桃香

44

私の大切な時間

十二月田小学校

六年

山澤 璃子

46

「宝物」

朝日西小学校

四年

大島 瑠愛

48

「世界に伝えたい日本のこと」

戸塚南小学校

六年

東 みずほ

50

私の大切な時間

里小学校

四年

常陸 遥香

52

マラソンは苦しいだけじゃない

里小学校

六年

村岡 花

54

夏休み明けの日常

南鳩ヶ谷小学校

六年

山田 琉愛

56

一番大切なこと

東中学校

二年

芝塚 千珠

58

辛い時こそ

南中学校

二年

上原 咲希

60

「助け合い」の形

青木中学校

三年

菊地 優太

62

令和二年度 作文コンクールテーマ

小学生の部

- ・世界に伝えたい日本のこと
- ・私の好きな時間

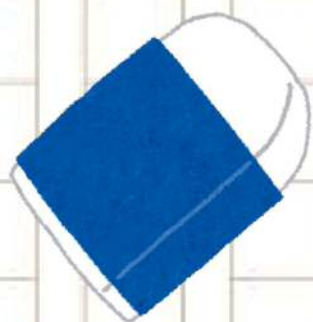
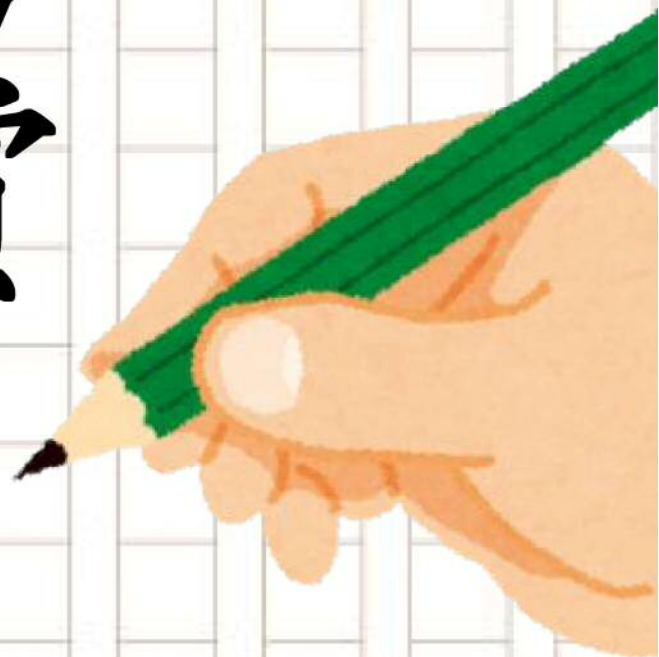
中学生の部

- ・災害時の助け合いについて
- ・マナーの大切さ

応募総数 1,770作品

たくさんのご応募ありがとうございました。

最優秀賞



日本のこたつ

里小学校 四年 村松 名月

もう、冬の季節です。私の家ではこたつを出しました。こたつは外国ではあまり見たことがありません。こたつは世界にほこれる日本の文化だと思います。なぜなら、外国とはまたちがった日本ならではのものがたくさんつまっているからです。

私がこたつを世界にほこれる日本の文化だと思う理由は2つあります。1つ目は気持ちよさです。私は正直、ベッドでねころがるよりもこたつでぬくぬくしている方が好きです。あたたかいのでほっこりと、気持ちを落ちつかせてリラックスすることができます。こたつに入りながらいろいろできるのです、つい魔法がかかったかのようにこたつから出られなくなってしまうこともあります。

2つ目の理由は使いやすさです。こたつはもうふとつくえが合体しています。そのため、ベッドとはちがって、こたつに入りながら、ゲームができたり、読書ができたりいろいろできます。冬な

どはいろいろ物事をやるとき、いすにすわってやると足元が寒くなってしまう。また、ものも置けたりもするので、ベッドやふとんよりもレパトリーが広がります。私も、こたつに入りながら読書をするのが大好きです。なので時間があるかぎりはいったいこたつにこもっていることもあります。

そんな、すばらしいこたつにも大きな欠点が1つあります。それは、出られないという魔法がかかってしまうことです。あまりに、あたたかくてもうふのさわりがこちがよくてこたつに一度入ったら、出られません。そう思うくらい、こたつは気持ち良くて寒い冬にはかかせない日本の冬の風物詩だと私は思います。

こたつの歴史を調べてみると、こたつは室町時代からあることが分かりました。火力を落としたりのりの上につくえを置き、衣服をかぶせたこたつを室町時代には使っていたそうです。こんなに長く愛されてきたのは、やはりこたつの気持ち良さを使いやすさのおかげなのではないかと私は考えました。

こたつは、日本にあった家具だからこそ、室町

時代から愛されてきています。エアコンなどよりもこたつは電気代が安くなります。でも、海外では大きな家の方が多いし、土足の文化もあります。日本は海外ほど大きな家に住むことは少ないし、土足の文化もありません。このようなことから、こたつは日本ならではのすてきな文化だと、私は考えています。そして、私は気持ち良くて使いやすいこたつが大好きです。

「マナー意識の欠如」が引き起こす弊害

青木中学校 三年 小林 滉典

私はこの作文を書く上で、一つ気になるものがあった。それは「ルールとマナーの相違」である。調べてみると、ルールには「規則」という意味があり、一方マナーでは「配慮」という意味があることがわかった。ルールとマナーは社会生活と円滑に送るための仕組みという点で共通しているが、ルールは「絶対的に守らなくてはいけない」という強制力があり、対してマナーには「守ったほうが良い」という異なった意味があったのである。マナーについて調べている最中、興味深い情報を見つけた。中国では、招待者はおもてなしの気持ちで食べきれないほどの料理を出し、客は料理を少し残すことがマナーという考え方があるらしいのだ。「十分いただきました。ありがとうございます。」の意味で、全部食べてしまうと「足りなかった」と招待者に受け取られてしまい、失礼に当たるといわれる。日本では、食べ物を残すことはいけ

ないことと親や先生から教えられてきた。私たちの場合は、犠牲になった動植物に感謝の気持ちを込めて最後まで綺麗に完食することが普通だが、すべての国の人たちが同じように考えているとは限らない。ただ、ここで見えるのはどちらも「思いやりからの行動」であるということだ。それぞれの独自のマナーがあり、それによって温かい気持ちになったり居心地がよくなったりする。マナーはルールとは違い強制されるものでもなく、また自分のマナーを相手に強要すべきものでもない。ここでは日本と中国の食事マナーを例として挙げたが、探してみると他にも見つかる。マナーは人によって、文化によって異なるのだ。

なぜ、マナーを守る必要があるのか。先の通り、マナーは強制するものでもされるものでもない。「マナーはルールじゃないんだから守る必要はないでしょう？」確かにそうである。だがマナーが失われた途端、一種の無法地帯と化すことも事実だ。よい（悪い）例がこちらである。

最近、SNSを介した誹謗中傷のニュースをよくテレビで聞くようになった。SNSは本来、動画、写真データなどの共有やネット上での受け

渡し、近況報告、情報の提供や収集など幅広い分野で世界中のユーザーとインタクトが取れるという目的のために存在しているはずなのだが、その便利な機能に溺れて行き過ぎた方向で悪目立ちしている人を見かける。個人・団体に対する誹謗中傷の数々や、それに便乗して口々に罵詈雑言を浴びせる一部のユーザー達。インターネットが普及するにつれて、そういった問題点も露呈されてきたと感じる。もちろんその人なりの考えや正義があるのだろうが、それは他の人も同じように思っているのだろうか。この投稿を見て不快に思う人はいないのだろうか。このように考えることが大切なのではないかと思う。また、これこそが「マナー」であり、「相手への配慮」「思いやり」なのである。

マナーが無くなったことで引き起こされるのはメリットではなく、確実にデメリットだ。事実、この心ない暴言の数々によって心身共に疲れ果て、押しつぶされ、誰にも相談できずに自ら命を絶った人が沢山いる。「相手を傷つけるような発言はしない」なんて、今更喚起する程のものではない。もはや当然のことであり、「暗黙の了解」の域に達

している。マナーを守る意識の欠如が引き起こす弊害は計り知れないのだ。

最後になるが、「マナーの大切さ」とは一体何なのか。それは相手だけでなく、自分までも幸せにしてくれることだろう。先に述べたように、マナーの捉え方は人によって違う。そのため良かれと思ってした行動も、相手にとっては肯定的に見てもらえないかもしれないし、意図しない受け取り方をされる恐れがある。もっとも大切にすべきマナーは、お互いの気持ちを考えることなのかもしれない。

優秀賞



日本の美しさ

元郷小学校 四年 池田 楓花

わたしはどこよりもこの日本が好きだ。海の向こうのどの国よりも好きだ。なぜか？それは、自然があるからだ。それに人々もやさしい。わたしはそんなすばらしい日本のみ力を世界に伝えたいと思っている。

伝えたいことの一つ目は日本の自然である。日本にはたくさんの自然がのこっている。自然を利用した観光地もある。東京や大阪などの大都市では高いビルが建てられ、緑があるのは公園ぐらいだが意外にもそこから少しはなれば田んぼや畑が広がっていることも多い。このように多くの自然がのこっている日本に外国人のみなさんにはどんなきてほしい。しかし、今年は新がたコロナウイルスのえいきょうで観光ができない。日本に来ることさえできない。だから外国人のみなさんにはコロナウイルスがおさまったときに日本に来て日本のみ力を感じてほしい。

次に伝えたいのは、日本人のやさしさや思いやりの心だ。日本人にはこまっている人を助けたいと思っている人が多い。電車やバスで席をゆずってくれる人も少なくない。こまっている人を助けたいと思っている人は思いやりやおもてなしの心も強い。だから日本人はやさしくなる。そんな日本はやさしさを感じられる大きなイベントが今年ある、はずだった。そのイベントが「東京オリンピック2020」だ。なぜオリンピックで日本人のやさしさが感じられるのか？それはたくさんボランティアの方々がいるからだ。おうぼしてもボランティアなのになぜこんなにも多くの人がおうぼしたのだろうか？それはやっぱり日本人がこまっている人を助けたいという強い気持ちを持っているからだ。わたしは思う。でも、この東京オリンピックもコロナウイルスのえいきょうで二千二十一年にえんきとなつてしまった。しかもきぼを小さくするというから楽しみが半分になってしまうのではないか、日本人のやさしさを感じる場面が少なくなってしまうのではないかと心配になつてしまう。

つまりわたしが世界に伝えたいのはみ力がたくさんあってとても美しい日本に来てほしいということ、そして日本に来たら日本の自然や人々のいいところやすてきなところをたくさん考えてみてほしいということだ。外国人のみなさんがわたしたちとはちがう目線で日本を見たらわたしたちが気づいていない日本のいいところ、すてきなところ、気づくかもしれない。わたしが外国に行ったらそういうことも考えながら観光してみようと思う。みんなは気付かない、いろいろなことに気づくかもしれないから。

小さな幸せ

戸塚小学校 六年 森 好花

みなさんにとって幸せな時間はどんな時間ですか？私は何となく毎日を過ごしていますが、そんなことが幸せな時間なのかなと思います。

今年は、新型コロナウイルスのことがあって、学校が急にお休みになりました。六年生になって四月には、学校にいけないだろうと思っていたら、感染拡大防止のため、五月まで、学校が休みになってしまいました。三カ月間くらい、私は、家で過ごしました。

家では、学校に通っている時のように時間割を決めて、一人で勉強しました。休み時間になって、先生も、友達もいなくてつまりました。放課後は、いつもなら、友達と約束して、公園やだれかの家で遊んでいたのに、習い事の練習をしたり、テレビを見たり、ゲームをしたりしていました。

最初は、自由な時間がたくさんできたと少し喜

んでいましたが、だんだん、早く学校行きたいなと考えるようになってきました。

六月になって、やっと、学校が始まりました。

最初は、分散登校で、時間も短かったので、なかなかクラスになじめませんでした。そんなある日、席の近い子に話しかけてみました。

「ここどうやって解くか教えてくれるかな。」

「うん、いいよ。」

その子とすぐに仲良くなりました。

それから、学校がどんどん楽しくなりました。今では、休み時間になると、友達とくだらない話をして、大笑いしています。気がついたら休み時間が終わってしまいます。放課後も約束して、毎週遊びます。いっしょに宿題をしたり、公園でバレーボールをしたり、ドッジボールをしたりします。学校や友達との時間は、あつという間です。今年も、運動会、音楽会、持久走大会、修学旅行など、ほとんどの行事がなくなってしまう、生活のし方が色々変わりました。大変になって残念です。

しかし、毎日学校に行けること、みんなと勉強ができること、休み時間、友達と大笑いできるこ

と、クラスの中だけど、小さな行事がやれることは、私にとって、とても大切な時間です。長い休みがなかったら、気が付けなかったかもしれない。小学校生活、残りわずかですが、一日一日大切に、過ごしていきたいです。

本と共に

里小学校 六年 池田 彩夏

私は小さいころからずっと本が大好きでした。そして、作家の三浦綾子さんを尊敬しています。なので、私の好きな時間は本を読んでいる時間です。三浦綾子さんの本は、他の本にはない、心にくぐとくるなにかがあります。本は、人の心を動かせるすごい力をもったものでもあるから、そういう物語を書ける人がいるんだと思います。

本は、不思議なものだと、最近よく考えます。本というのは、何百枚もの字が書かれた紙の束であるだけなのに、その中にはだれも想像できないようなはてしない物語が入っていたりもします。そして、その本のおかげで一人の人間が一から変われるかもしれないのです。それに、本を読んでいるときは、人ならだれでも感じるなやみなどを忘れることができます。こういった本のみ力の中で私が1番思うのは、一回しかない自分の人生の中で、他の人の人生も体験できるということです。

本を読んでいる時間は、自分が自分じゃなくなります。本の中の登場人物のだれかになります。そうすると、本を読み切るまでの間、その本の中の一人になることで他の人の人生を一回きりの人生の中で体験することができるようです。だから私は本を読む時間は特別で、自分にとって最高の時間だと思っています。

今、私たちが生きる世界では、本を手にする人がへつてきています。本は、読まないとすばらしさが分からないし、一頁一頁めくることによってそのみ力が理解できます。もしかしたら私が大人になるころには本の文化がとぎれそうになっていくかもしれません。そうならないように私は、できるかぎりたくさんの人に本のみ力を発信していきたいと思っています。そのためには、まずは自分が本のみ力をなるべくはあくすることが大切だと考えました。ですが、本には数えきれないほどのみ力があります。なので私は、できるかぎりの本を読み、本の文化がとぎれないようにしていきたいと思っています。

このように、本は人がすべてを理解できないほどの不思議な力をもっています。それによって人

は支えられ、心を豊かにされ、生きていくことができるのです。自分の人生は一回きりなので、自分が満足するまで本に時間を使い、たくさんの方の考え方をしって、後かいないように本と共に、生きていきたいと改めて考えることができました。そして、本についてよく考えてくれる人が一人でもふえ、世の中を本で支えるような世界になってほしいと思いました。

大切な時間

里小学校 六年 広瀬 柚

みなさんは、時間も忘れてとてもリラックスすることが出来る大切な時間がありますか。私にとってリラックスできる大切な時間は「音楽を聴く時間」です。

私は小さい頃からすぐそばに音楽があり、常に何か音楽が流れているような環境で育ったので、私にとって音楽は今でも本当に欠かせません。私は学校などの友好関係でうまくいってなかった時、学校に行こうかも本気で迷っていました。学校に行っても話す人も遊ぶ人もいない状態で「生きていても楽しいことなんて…」。「私なんか…」と考

えたりもし始め、日に日に私は暗くなり、なんでもすぐにネガティブな方に持っていくようになってしまいました。その時は、音楽を聴く余ゆうもなかった泣いて自分を追い込む一方でした。ですがそんなときに久々に音楽を聴こうと思い出し音楽プレイヤーを開いた時、ランキングに、曲名からとても気になるような曲があり、私の指は自然とひっぱられていき、その曲をタップしてしまいました。するとその曲の歌詞は、その時の私にとっても当てはまっていた、私はこの曲に心がもっていかれました。そしてその後には、いままでずっと聴いてきた曲や、自分の気分にあった曲をまた聴くようになりしました。その時初めて自分の「生きがい」を見つけられた気がして今までずっと気にしていた学校のことなどを忘れ、とてもリラックスできたのを今でも鮮明に覚えています。それから、何かあったら音楽を聴き自分の心を落ち着かせるようになり、いつのまにかその時間は私にとって、なくてはならない「大切な時間」になりました。音楽はつらい時も、うれしい時も、すぐそばにあり、自分の願いを叶えてくれる魔法だと思いました。

今では、聴くだけじゃなく作る側に回りたいて思っていて、ギターの練習や、どうすれば人の心に響くのかを考えながら、簡単に曲を作ってみましたりもしています。これから幸せだと思いう時間は増えていくと思います。それでもその時に幸せだと思えたのは音楽があったからという事を忘れず

に、もらうだけではなく、色々な人に魔法を届け、一人でも救えるような曲を作れるようになりたいと思っています。みなさんも「大切な時間」は見つけられていないだけで、必ず一つはあると私は思っています。もしその時間を見つけた時は、何があっても支えになってくれると思うので大切にしてほしいと思います。

大人になるための鍵

青木中学校 二年 熊谷 朋紀

なぜマナーを守る必要があるのでしょうか。守ることで、自分が得をしたり、何かをもらえることはないのに。そもそもマナーというのは「守ることでお互いが気持ちよく過ごす」ための心遣いのことを指します。僕が幼いころは、ルールは守らなくてはいけないけれど、マナーは守っても守らなくてもいいものだと思っていました。しかし、成長するにつれて、マナーの必要さがだんだんと分かるようになりました。

僕は、中学に進学して剣道部に入りました。剣道は礼儀をととても大切に、「礼で始まり礼で終わる」と言われています。なので、中学生以上で剣道をしている人は、みんな礼儀正しく、マナーが守れる人だと思っていました。ある日、多くの学校が一つの体育館に集まる練習試合がありました。初めて試合をする学校があり、僕は中堅という三番目に出る役割でした。先鋒戦は相手が勝ち、相

手の先鋒はガッツポーズをしました。剣道では試合でガッツポーズをしてはいけません。しかし練習試合なので、そこまで厳しくはないので注意もなく終わりました。僕はそのとき、怒りをおさえることができずに、自分の出番になると荒々しい試合をしてしまいました。その後、なぜガッツポーズをしてはいけないのか考えました。一本とつた人がガッツポーズをすると、とられたほうはどんな気持ちになるのでしょうか。ガッツポーズ禁止の理由は、お互いを尊重するためだと思います。剣道には、お互いを尊重し合うためのマナーが多くあります。なので、そのマナーが身にしみついている人は、剣道も強く、性格もとても良い人だと思います。剣道は、体だけでなく心もきたえることができます。剣道は、体だけでなく心もきたえる。その剣道を通じて、マナーを守ることはいかに大切なものかを学びました。

剣道を習い始めたことによつて、「お互いが気持ちよく過ごせるためにはどうすればいいのか」を日常で考えられるようになりました。学校でも、先生だけでなく友達にも当たり前なマナーを守ることができるようになりました。しかし、学校生

活の中で一つ違和感に思うことがあります。「挨拶」です。社会に出れば誰もがあたり前にします。そうなるために、小さい頃から身につけるのですが、挨拶をマナーではなくルールとして認識している人が多いのではと感じています。先生に言われたからや友達がしたからという考えを持っていると、挨拶とは言わないと思います。何でもルールにすれば、従う人は増えますが、ルールとしてする行動には特別な感情はなく、やらされている感じがひしひしと伝わってきます。なのでルールが多すぎると人間としてあたり前のことができなくなってしまう、マナーも守れなくなるのではと考えています。挨拶や係の仕事などを癖にすることで、大人になって社会にでるときにマナーの守れる大人になれると思うので、生活の中で責任を持って行動して、他人にも気をつかえるようにしていきたいです。

最近の社会では、パワハラの問題が多くあります。パワハラをしてしまう人は、自分の立場が上であるため、礼儀などのマナーを忘れがちだと思えます。立場などは関係なく、マナーを守れる人が多くいる社会が真の社会だと思います。そのよ

うな社会をつくっていくのが僕たちです。そのため、中学から大学の間に、人間性を養い、マナーを守れる素敵な大人に近づく必要があります。また、ルールとマナーの区別をはっきりして、マナーをルール化してはいけないと自覚することが大切だと思います。僕は、剣道というすばらしい武道をしているので、どんな立場でもマナーを忘れずに生活していきたいです。そして、社会に出てはずかしくない大人になりたいです。

マナーは守るべきもの

青木中学校 三年 小暮 真尋

ルールを守ること。これはもちろん大切だと思う。しかし、それと同じくらいマナーを守ること
も大切だし、そうするべきだと思う。

マナーは守らなくても怒られることはない。だから守らない人も少なくないし、自分も少し前までそうだった。わざわざルールで決められているわけでもないのに、なぜ他人のために行動しなければならぬのか疑問だったのだ。しかし、今ではその考えは絶対に正しくないと断言できる。このようにマナーに対する考え方が変わったのはある出来事があったからだ。

中学二年生の夏休み。友達とサッカーの観戦にいった時に公共のスペースでボールを蹴っている人がいた。スタジアムのすぐ前なのでもちろん人も多いし、ボールを蹴っていい場所じゃないことは誰にでもわかるような所だった。やっている人が小学生以下の小さな子どもなら納得がいくが高

校生くらいの人たちだったので驚いた。ボールを使っているいけないという注意書きはなかったが非常識だと思った。実際、人に当たりそうになつていたし、迷惑だった。自分には関係ないと思って通り過ぎようとしていたら、

「マナー違反だろう」

この言葉が多く聞こえた。自分が今まで守らなくてもいいと思っていたマナーを守らなかった人のせいで誰かが不快になったのだ。自分の中に「マナー違反」という言葉が引かかった。

家に帰ってからマナーについて深く考えた。今までマナーは人が暮らすためだけにあると思っていた。しかし、人が心地良く行動したりするためにもあると思った。また、それをルールにする
人の行動を制限しすぎるからだと思った。

今ではマナーも増えてきている。コロナウイルスの影響でマスクをする、せきエチケットもマナーから新しい常識になりつつある。だから、他の基本的なマナーも常識としてとらえるべきだ
と思った。

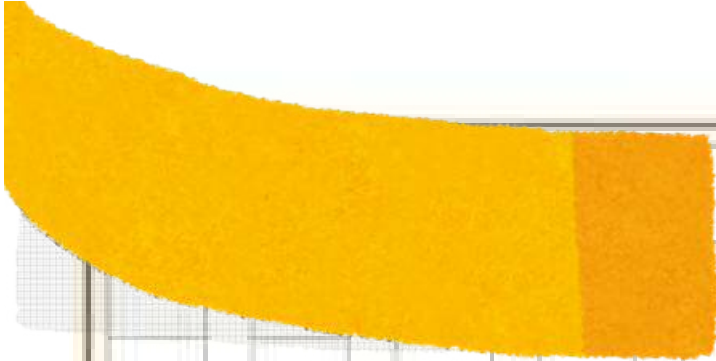
マナーは確かに守らなくても罰は受けないけど、守らなくて得するのは自分だけだと思う。だから、

もっと他人のことを考えてルールで決められていないから守らないという考えを捨てて互いを尊重して行動する人が増えてほしいと思った。

これらのマナーを守るということは水上で学んだ集団行動に通ずることがあると思った。自分のことだけでなく全体のことを優先する。規模が違っても仕組みはとも似ている。これは渋谷のハロウィンや成人式でよくわかる。テンションをおさえられず場を乱してしまうことが毎年ある。これをいつもテレビで見ている自分はこんなことに全く関係ないと思っていた。しかし、少し見方を変えてみると身近なことから大きく発展しただけだと気づいた。今のコロナウイルスもそうだ。ウイルスを軽視した人が予防なしに外出した結果だ。正直マナーを守らなくても迷惑がかかるのは少数人だと考えている人も多いだろう。実際ほとんどの場合はそうだ。しかしどうだろう。今、それをしなかったせいで世界中が混乱に包まれている。

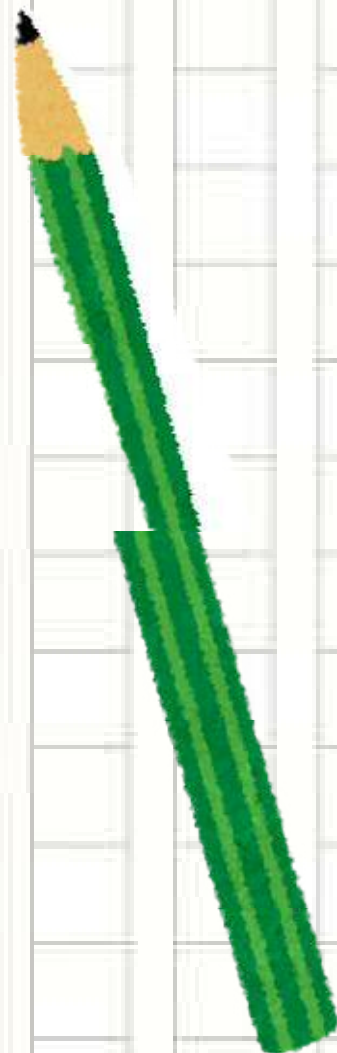
以上のことから、マナーは非常に細かいことで、守らなくても捕まったりはしない。しかし、守らなくてもいいではなく、守ったら人が喜ぶと思っ

て行動してほしい。マナーは義務ではない。しかし、僕はルールと同じだと感じている。これをつとめていきたいし、周りにも広げたい。



入

選



ぼくのメダカたち

元郷小学校 五年 内藤 由喜

ぼくの一番好きな時間は、今飼っているメダカを大きく育てることです。もともとこのメダカは、理科の先生に、ち魚をもらってきました。そして一年たった今でも大切に育てています。

魚は何回も飼っているのですが、そのたびに死なせてしまいました。その理由は、水道水をカルキぬきしないで、そのまま使っていたからです。けれども、ドジョウはちがう理由で死なせてしまいました。その理由は、直しや日光です。おばあちゃんの家に行っている間に水温を上げてしまい、帰ってきたころには、さかさまになって死んでいました。そのとき、とても悲しかったです。「こんなに大事に育てたのに……。」と思いました。

このような失敗があり、今にいたっています。メダカをもらってきて一年がたった時に、また、問題が発生しました。水そうが、まき貝だらけで、

メダカが目に入らないほどです。最初は水をじょう化してくれるタニシだと思っていたのですが、ゼリー状の卵がびっしりついていて、心配になり、インターネットで調べました。すると、スネールということが分かりました。読むと、「スネールは、ゼリー状の卵を産み、たちまち二日で、20ぴきになる。また、水そうのかんきょうを悪化させ、魚たちを食べる。」と書いてありました。これは大変だと思い、毎日あみで、スネールをすくいましたが、ふえ続けるので、スネールをたおす方法を調べました。スネールを食べる魚を水そうに入れるか、薬を使わないとたおせないと書いてありました。スネールを食べる魚を調べると、「10cm以内のものは、全て食べてしまう。」と書いていました。飼っている魚を食べられてしまうので、スネールを食べる魚を入れる事は、できませんでした。そこで、貝やなん体動物を弱らせる薬を入れることにしました。あちこち探して買いに行き、試してみると、みるみるうちにスネールが落ちていき、三日後には全部落ちていきました。

このあと、家族で水そうのそうじをしました。今までの失敗をふり返って、話し合い、流木、石、

かくれ家、水草を買って、メダカたちのすみやすいかんきょうをつくりました。魚を新しい水そうに入れると、みんな楽しくのびのびと泳いでいます。赤ちゃんも産まれました。

ぼくは、この体験から、何ごととも一回ではない。何度も何度も失敗してできるということが分かりました。また、失敗はだめなことではない。失敗からいかに学べるかが、大事なことでたと気付きました。

これから、ち魚が大きく元気に育ったり、メダカやグッピー、ミナミヌマエビに長生きしてほしいです。

日本の花火

十二月田小学校 四年 竹道 怜菜

みなさんは、花火を見たことはありませんか。空にうちあげる、大きな花です。

わたしは、たくさんの人に花火のよさを知ってほしいと思っています。なぜなら、昔から続いている日本の文化を、これからも続けていきたいからです。そして、みんなずっと笑っていてほしいからです。

花火のよさは三つあります。

一つ目は美しいところです。毎年、夏祭りや花火大会のために新しいデザインや色が作られます。そして、花火がかかっている物やデザインも毎年作られ続けています。それだけ町の人たちは花火を大切に思っています。そして、花火というすてきな文化をいつまでも残し続けようと思っています。花火があまりあがらなかった年でも、わたし達をよろこばせようとしているのではと思いました。わたしも花火を残したいと思いました。

二つ目のよさは、何年も続いているということです。何年も続いているということは、それだけたくさんの人に愛され続けたんだなと思います。それに、れきしがある日本文化はすてきなだと思います。そんなに愛され続けているのには、何か理由があるのかなと思います。わたしは、昔の花火は、ご先祖様に送る物だったと聞きました。そこで、今の花火もご先祖様に送るという意味がこめられているからずっと続いているのかなと思いました。なので、これからも花火の文化は続いてほしいなと思いました。

三つ目のよさは、勇気づけることができるということです。今年は新型コロナウイルスのえきようもあり、大きな花火大会や夏祭りはできませんでした。しかし、病院の関係者の人達にありがとうの気持ちをこめて、花火がうちあがりました。わたしは、その話を聞いて、勇気づけられると思いました。そして、わたしも感しやを送りたいと思いました。

このように、花火にはたくさんのいいところやよさがあります。今年はまだ見れませんでした。が、来年見てみてはどうですか。

美しい音と小さな希望

十二月田小学校 五年 加藤 利彩

「やりたい、やりたい、ピアノがひきたい。」
私の好きな時間は、ここから始まった。

ある日、私は家族で東京に出かけた。そのめあては、「ピアノのコンサート」であった。その時はまだ、音楽にも興味がなかった。しかし、家で父がピアノのCDをたまたま聞いて、「音がきれいだ。」とピアノに興味をもったそうだった。当時の私はまだ幼かったため、音楽を聞く機会もなかった。きつと、つまらなかったのだと思う。コンサート会場では、広いホールの中にぼつんと一つのピアノがおいてあった。そのピアノは、見る位置を変えらるたびに、つやが光り、とてもきれいだった。しかし、私はべつに興味がなかった。後ろを見ると、何十個ものいすが、きれいにならべてあった。ただピアノの音を聞いただけなのに、こんなに人がくるのかと、間に思っていた。ところが、自分たちがすわった後に、どんどん人が入ってきて、やが

て満席になった。本当にびっくりした。これだけの人数が来ると言うことは、とても感動できる何かがあるのではないか。私はそう期待していた。コンサートが始まった。ステージのわきから、一人の女性がでてきた。赤いドレスが星のようにキラキラと光っていた。この人こそが、このコンサートでピアノを演そうする人だった。その人は、少し礼をしてから黒いすにすわった。表情は、しんけんだった。指でけんばんをおした。美しい音が会場になりひびいた。私ははっとした。これがピアノだ、これがピアノの音だと気づいたのだ。長い長い時間が、あつというまにすぎいった。

一つ一つの音を一つ一つ指でならす。私は、あの音がわすれられなかった。その時、ふと感じていた。「ピアノをひきたい」と思ったのだ。その思いはとても強く、すぐに親に相談した。親は音楽に関することは一つもしていなかったため、少しなやんだところもあったが、許可をしてくれた。それから、私はピアノを習い始めた。最初はなんだかよく分からないところもたくさんあった。けれど、たくさん練習をして、たくさん教えても

らい、ピアノの一曲をひけるようになった。その
ピアノの練習をしたり、いろいろな曲を演そうす
ることが、今の私の大好きな時間であった。きつ
かけは小さくても、希望は大きくなる。私は、こ
の好きな時間を大切にし、共に歩みたい。

本への入り口

十二月田小学校 六年 高野 晃輔

おもしろい。ワクワク、ゾクゾクいろいろな感覚を呼び覚ましてくれる。ぼくはそんな本を読み、本の世界に入っていくのが好きだ。本を読むことで、知識を学ぶことができる。人生で本を読まない人はいないだろう。本は人の感情を豊かにし、知らないことを教えてくれる。ぼくは学校や家、バスの中など、いろいろなところで本を読んでいる。そのたびに、感情が呼び覚まされる。この主人公はこの出来事をどのように感じているのだろう。どんな展開がまちうけているのだろう。想像がふくらんでいく。ぼくはページをめくることにより本のおく深くにねむる筆者の考えを感じている。本は人間を育て、感情を豊かにし、知識までもをさずけてくれる。

ぼくが本に興味を持ったのは二年生の夏のころで、買い物の帰りに本屋へ立ち寄ったのがきっかけだった。当時ぼくはあまり本を読むことは少な

く、学校で宿題でたときぐらいでしか読んでいなかった。その日は日曜日で宿題はおわっていて、予定はなく、午後からはとくにするとはなかった。本屋に寄ったのも、ひまつぶしをするつもりだけだった。帰っても親はいないので本を一冊買うことにした。が、とくに子供が読むものではなく、しかたなく読みやすそうな本を選んだ。家に帰って、一人で本を開いた。主人公が異世界を仲間と探検する話だった。いがいにも読みやすく、漢字にもよみがながかかれていたので、すぐに読みおえてしまった。ドキドキ、ワクワク、すべてが伝わってきた。同じ本を二度三度読んだ。一回読んだのにぜんぜんあきない。それが本だと思った。すべてが文なのに不思議とすべてが伝わってきた。両親が帰ってきて、まっさきにそのことを話した。二人ともその成長をすぐよくこんでくれた。それからよく本屋によって帰ったりするようになった。何気ない日々がいつきに楽しい日々にもうまれかわった。本一冊で毎日がこんなにもかわるのだということを初めて知った。

こうしてぼくは本に興味をもち、本について考えるようになった。本には読者を夢中にさせる何

かがあった。本を読み始めるととまらなくなる。あつというまのように感じるが、実はけっこう時間がたつていて習い事におくれそうになったこともあった。本を読むと自分だけの世界に入っている。今もぼくはサスペンス、ノンフィクション、実用書、ジャンルを問わず楽しく本を読む。雑学もいっぱい本をよむと入ってくる。本は教科書のようだった。

本に興味を持つてから四年半たった今、なにもなかった棚は本でうめつくされていた。月に二、三度図書館にいくのがあたり前になった。本に出会うことがなかったら、こんなにも楽しく毎日がおくれていなかったのだろう。「本」は宝物、どんなときもすぐそばにあるべつの世界。

日本の環境と多くの固有種

里小学校 五年 和田 奏

私は、豊かな環境と日本の固有種について世界の人々に伝えたいです。日本には固有種が多く存在していることを知っていますか。ロシアなど他国と比べると、すてきな自然環境が日本は整っているためです。

固有種が多いので、その固有種たちが生きていくために自然環境を整えています。固有種たちは、なぜ日本で生き続けるかという日本列島が南北に長い、寒い地域から、あたたかい地域までの気候的なちがいが大きく、地形的にも、平地から標高三千メートルをこす山岳地帯まで変化に富んでいるからです。そのおかげで、様々な固有種がくらせる、ゆたかで多様な環境が形づくられたのです。もしも、固有種たちが多く存在していなければこの日本のほこれる自然環境は保全されていなかったはず。そして日本は、国土の約八十パーセントが森林におおわれています。そうい

う意味では豊かな自然に恵まれた国です。しかしまだ深刻な問題も起こっているのを知っていましたか。こうした状況を受けて日本の美しい自然、本来あるべき姿を守るため現在様々な取り組みや研究、努力が成されています。そして、環境と言えどごみの問題ですね。日本のごみ焼却場数はダントツで世界一位で、これほど多くのごみを出し燃やしている国はありません。「燃やすとダイオキシン」、埋めると「土壌汚染」などで、まずごみを減らす活動が日本ですいません。だから、ごみを減らし、豊かで多様な環境を作り保全していくことが本当のすてきな日本の環境と言えます。そして、固有種の話にもどります。この前、話題に取り上げた、日本の自然環境。これほど自然に恵まれ、固有種が古くから多く生き残っている国はそれほどありません。私は、国語の学習で固有種のことを学びました。それまでは固有種のことを知らず、固有種がどれほど大切なものかを知りませんでした。固有種は、古くから姿を変えないものも多く、アマミノクロウサギは、今のウサギとはちがいが短いです。そして、あまりピョンピョンはねません。

古くから生き続けた固有種たちは、この日本でしか生きていくことができません。だから、この固有種たちが生きていくための自然環境をできる限り保全していて、日本が責任をもつて固有種の保護を進めていることを世界の人々に伝えたいのです。

好きな時間で気づいた事

南鳩ヶ谷小学校 四年 谷口 香穂

いつものスニーカーをはいて、いつも歩いていく見なれた道を歩く。私は、この時間が好きだ。毎週土曜日の、午前に、私はいつも散歩に出かける。けれど、いつも同じ道を歩くのではない。毎週、学区中の中でもちがった道を歩くのだ。歩くのは三十分ほどなので、いつもちがう道を歩いていても、一ヶ月ほどはかぶらないし、楽しい。こうして毎週散歩を続けると、学区中の中でも、新しいことや、知らなかったことが見つかるのだ。それが、なにより楽しいし、面白いので、毎週続けている。

この散歩を始めたのは、四年生の四月くらいで、友達と遊ぶやくそくだったけど、友達が急な予定で遊べなくなったので、ひまつぶしに学区中を歩いてみた。それが始まりだ。学校の近くの公園だったので、学校をのぞいてみた。校庭にはだれもいなかった。友達の家の前を通った。他の公園に

行ってみた。三十分くらいたつところで、家に帰ってきた。楽しかった。いつも通っている学校の近くでも、こんな所にこんなお店があったとか、すぐく小さいけどここに公園があったんだとか、いつも通っていた道の近くは、少し道をまがることで、知らないことがたくさんあった。地図で見ると、小さかった学区中も、歩いてみると大きく感じた。散歩した時に、思ったことだ。

その日から毎週、予定がない土曜日には、散歩をし続けた。新しいことを見つけるのが好きなので、散歩する時間は、私の好きな時間になっていた。

そこで私は、この作文を書いている間に気がついた。『新しい道を散歩する』のは、『新しいことにチャレンジする』ということにいていないかと。新しい道を散歩すると、さきにも言ったように、知らないことがたくさん見つかるし、新しいことにチャレンジすると、きつと知らなかったことも知ることになるだろう。私が言いたいことは、そういうことだ。新しいことが見つかる、私は楽しくなって、散歩を続けたい。だから新しいことにチャレンジして、新しいことを見つけ、

続けてみたい。

私は、いろんな事にチャレンジして、生きていくような人になりたい。

「物をつくる時間が好き」

南鳩ヶ谷小学校 六年 藤岡 美杜

私は物を作る時間が好きだ。特に、友達や家族に作ったものをあげるために作っている時間が好きだ。物を作っている時は心が温まるし、あげる相手のことを考えることが出来る。また、「よろこんでくれるかな。」とワクワクする。

私が物をつくることが好きになったきっかけは、母だ。母は、私がまだ幼い時すてきなスカートやワンピースをたくさん作ってくれた。最近は学校に必要なバックや袋、マスクを作ってくれる。そんな母が、私が小学二年生の時に姉といっしょにマフラーを作っていたのを見て、

「私もマフラー、作りたい！」

と母に言った。母は、

「あぶないからだめ。」

と言った。その代わりに「かぎ針」という、先が折れまがつっているちいさな棒を貸してくれた。私はうれしくて、持っていた毛糸で花を作ることに

した。小さな花でも作るのは大変ですごく時間がかかった。やっと出来た小さな花を母と姉に見せると、

「すごい！上手。」

とほめてくれた。その時に感じた、たっせい感とよろこびを今も忘れられない。その花を父にあげると、

「ありがとう。」

と言ってくれた。その時に私は手作りをした物をあげると、もらった方も、あげた方もうれしくなることを知った。その後、私は、かぎ針を使って自分用のネックウオーマーを作った。そのネックウオーマーはとても温かかった。ネックウオーマーをいっしょけんめい編んだ思いが温かくさせているのだと感じた。「手づくりは温かい。」そのことを知れた。だから私は手づくりが好きだし、手づくりをもらうことも好きだ。

最近は、もう作られた物が売っていて、物を作ることの楽しさ、うれしさを知らない人もいたり、手作りの物を、もらう機会があまりないと思う。だから私は、物を作ってあげることとで「手作りの温かさ」をひろめていきたい。

私から始まるマナーの輪

南中学校 一年 山崎 杏

「マナーを説明してください。」そう聞かれた時、すぐに答えられるでしょうか。普段、生活の中でよく聞く言葉ではあるものの、説明しなさいと改めて言われると、すぐには思いつかないものです。では一体「マナー」とは何なのでしょう。そして「マナーを守る大切さ」とは何なのでしょう。うか。

例として、日常において様々な場面で交わされる挨拶を考えてみましょう。複数の家庭が集まる集合住宅であるマンションで、住民の方とすれ違った時の場合です。相手に聞こえる声で、きちんと目を見て挨拶をするのと、何も言わずに下を向いてすれ違うのでは、どちらがマナーの良い人と言えるでしょうか。いつであったか、挨拶は自己紹介と聞いたことがあります。自分は挨拶をしたにもかかわらず、相手は何も言わずに下を向いて挨拶が返ってこなかったという経験は誰にだっ

て一度はあるでしょう。そういった経験があると次に同じ場面になった場合、挨拶しにくくなりますし、返事が返ってこないのではと再度挨拶をするにも勇気が必要になります。それはこちらは心を開いて挨拶（自己紹介）をしたにも関わらず、受け入れてもらえないという気持ちになり、相手に対して「挨拶をしない人」という印象が付いたのであり、会話がそれ以上続くこともなければ、その方の家族に対しても良い印象をもたないこととなる可能性があるでしょう。挨拶一つで第一印象が良いものになるか悪いものになるかが決まりますし、お互い挨拶を交わさないことは気持ちのいいものではありません。また、これが住民の方ではなく学校の友達だったとしましょう。学生生活を過ごす仲間であり、共に勉強をしたり、行事を協力して過ごしたり、部活で汗を流すこともあるでしょう。しかし挨拶一つでせっかく仲間になる機会を失う原因になることもあります。

つまり、マナーとは人間関係を円滑に築くための大事な要素であり、マナーを守ることです。その後の信頼関係を築けるということ。それは相手の気持ちを思いやる心であり、マナーを守ると

自身を含む身の回りの人々が気持ちよく過ごせます。そして皆が同じ思いやる心があれば、やがては、この気持ちのより輪が広がり、自身を含まない場所や場面においても「マナーの輪」は広がっていくと考えます。

では、マナーを守れない人がいるのはなぜなのでしょう。それは、自分だけなら良い、自分だけならば問題ないという考えを持っているからではないかと思えます。マナーを守るためには自分のことだけでなく、相手のことを考えて行動する「思いやり」が大切であり、マナーを守らない人こそマナーを守る大切さを理解する必要があると思えます。

マナーは誰しも生まれた時から備わっているものではありませんし、理解していても守らない人、マナー自体を知らない人が世の中に沢山います。私自身、もちろん全てのマナーが備わっている訳ではなく、度々注意を受けたり、失敗から学ぶことが多々あります。最近では新型コロナウイルス拡大の影響で様々な規制や縮小、皆が多少の我慢と隣り合わせの生活を送っています。そのような世の中であるからこそ、皆が気持ちよく生活

できるよう、相手の心の動きに気を配って行動したいです。また、マナーを学び磨きかけることで、人としての立ち振る舞いに自信を持つことができ、よりマナーを大切にしたいという気持ちをもてると思います。

これから社会に出る私たちが、マナーを守る大切さを意識しながら日々生活し、未来の日本、沢山の人々が気持ちよく生活できる世の中へ役立てていきたいです。

そしてこの作文をきっかけに、私から始まる「マナーの輪」を広げていきたいです。

世界の人々が笑顔で過ごすためにも

青木中学校 一年 春山 桜和香

もしも、世界からマナーが無くなってしまったら。

私はふと、こんなことを考えてみました。世界には、それぞれの場面で必要とされるマナーがあります。あいさつや食事のマナー、学校の授業でのマナー。たくさんさんのマナーがあります。マナーが無くなることによって相手をいやな気持ちにさせるなど、悪いことがたくさん起こってしまうのではないかと私は思いました。

小学生のころ、私は大きな声であいさつをすることがはずかしく、先生や通学を見守ってくれているスクールガードさんにあいさつをすることができていませんでした。学校の授業などから、あいさつをすることは大切だとわかってはいましたが、相手にあいさつをされても、小さな声であいさつをするか、目をそらすことしかできませんでした。

「あいさつもマナーの一つなんだから、しないとダメだよ。しないと自分も相手も気分が悪くなってしまうよ。」

これは私の習い事の先生が言った言葉です。この言葉を先生に言われた瞬間、私はハッとしました。自分がいさつをしないことによって、自分自身だけではなく相手の気分も悪くしてしまうということ。これまで考えたことがなかったからです。私はあいさつをして無視されたとき、自分が暗い気持ちになったことを思い出しました。その瞬間、私はスクールガードさんや先生に申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。私は次の日、スクールガードさんに思い切ってあいさつをしてみました。すると、笑顔で私にあいさつをかえしてくれました。自分がいさつをしたことによって、相手や自分自身を明るく気持ちにできたことがとてもうれしく、私の心はうれしい気持ちで風船のようになふくらみました。私は、マナーの一つであるあいさつをすることによって、自分や相手を明るく気持ちにできるということを学びました。

世界には日本では考えられないようなマナーがたくさんあります。中国人の友達の家へ遊びに行

ったとき、食事をふるまってもらいいました。たくさん料理がでてびっくりしましたが、私は残してはいけないと思い、一生懸命食べました。そのあと、社会の授業で、中国ではお客さんが食べきれない量の料理を出すことがマナーなのだと学びました。日本では、だされた食事を残さず食べるのがマナーですが、中国では残してもマナーが悪いことにはならないことを知ってとてもびっくりしました。日本と中国の食事に関するマナーは反対ですが、どちらも相手を喜ばせるためにやっている行動です。これから外国の人と接するときは、自分の国のマナーだけではなく、相手の国のマナーも知ることが大事だと思います。

私は、たくさんあるマナーにも大きな共通点があると思います。それは、どのマナーでも、必ず相手や自分自身のためになるということです。だれか一人がマナーが悪いと、周りにいるたくさん人のやる気や集中力などをうばってしまい、相手にいやな思いをさせてしまいます。しかし、一人一人が周りの人に気づかい、マナーを守ることによって、それぞれがやりたいことをスムーズにできるようになると思います。

なかには、自分のやりたいこととマナーの内容が反対のこともあるかもしれません。でも、自分の周りにいるたくさん人の気持ちを考え、マナーを守ることが大切だと思います。自分だけではなく、周りにいる人が明るい気持ちで過ごしているよう、私はこれからもマナーを大切にしていきたいと思っています。世界の人々が互いに協力し合い、明るく笑顔で過ごすためにも、マナーを守ることは必要なのです。

助け合いの大切さ

元郷中学校 三年 黒川 ほのか

二〇一一年三月一日、午後二時四六分。この日にちと時刻は、忘れもしない東日本大震災の日です。この地震で、たくさんの人の命、希望、日常が奪われ、日本は大きな悲しみにつつまれていました。しかし、そんな中日本を元気にしようと立ち上がり、人の心に温かさを与えてくれた人がたくさんいました。

東日本大震災のとき、私は保育園にいました。急に部屋が揺れ、こわかったのを幼いながら今でも覚えています。そして、震災後毎年東日本大震災の日が近づくとテレビで特集が組まれているのによく見ていました。そこで私は、ある人たちの行動に心を打たれました。ある人たちの行動とは、被災地で避難場所に集まってきた人たちに毛布や食べ物を配る手伝いをしていた人たちのことです。私はこのことをきいたとき、心がとても温かくなりました。なぜなら、あの状況下で自分第一にな

ってもおかしくないのに、周りの人と協力して生きようという思いが伝わってきたからです。東日本大震災は三月でしたが、震災地が東北というところもあり、まだ寒かったようです。そのうえ、自分の大切な人がどうなっているのか、自分たちはどうなっているのか、そんなことさえ分からずとても不安な夜だったそうです。しかし、そんな中手伝いをしてくれる人が現れました。しかも、社会人から、高校生や中学生といった、幅広い年齢の方たちだったそうです。私は中学生もいたことにとてもびつくりしました。もし私だったら、自分に何が起こっているのかさえ分からないのに、人のことを思って行動するなんて到底できません。だから、とてもすごいと思いました。また、その行動をしている姿を見てホッとしたという人の声をきいて、一人の人間を安心させるのでさえ難しいのにたくさんの人を安心させ、勇気を与えていてすごいなと思いました。私もこのような勇気を与えられる人間になりたいです。

そして、私にはもう一つに残っている話があります。それは、いろいろな地域から被災地に集まってボランティアで家の中の片付けなどをして

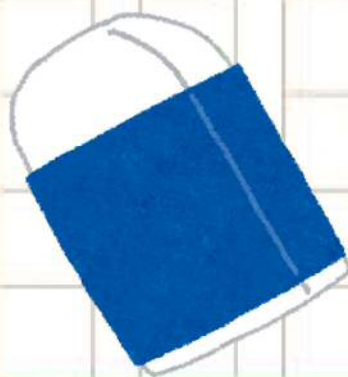
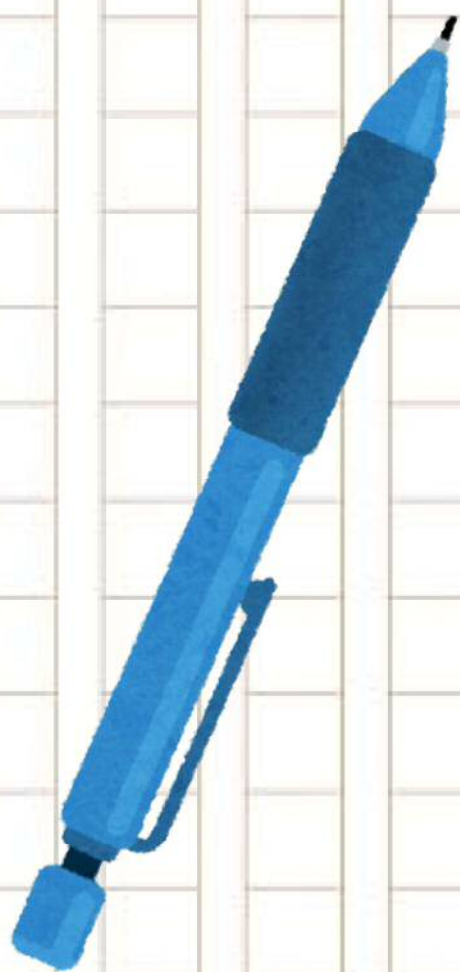
くれた人がたくさんいたという話です。私は、日本はなんていい国なんだろうと思いました。つらくて大変な人たちのために、遠いところから何人もボランティアをしに行ったのです。しかも、日本人だけではなく海外からもボランティアとして日本にきてくれた人がいたそうです。また、直接行かなくても元気づけるために手紙などをたくさん書いて送った人や募金をした人、この他にもたくさんの方が一つになって日本を元気づけるために立ち上がりました。災害によって得た心の傷は一生消えないかもしれません。でも、みんなが助け合えば心の傷を浅くすることができるかもしれないと思いました。

日本はとても地震が多いうえに、台風による洪水、土砂くずれなどたくさんの災害が年に何回もおきています。対策や準備などはできますが、防ぐことはできません。最初に言ったとおり、自然災害はたくさんの方の命、希望、日常を一瞬でうばってしまいます。人の命がなくなってしまうたり、あたりまえだと思っていた日常がある日突然なくなってしまうたら、「悲しい」という一言では表せないくらいの絶望がまっついていると思います。

そして、その絶望をたちきれるのは私たち、人間しかいません。私たちが支え合って、助け合っていくことができれば、元の生活には戻れないけれど、前向きに生きていくことができます。これから先、災害は必ずおきます。そのときは、日本中の人たちが、いや世界中の人たちで助け合っていきたい、私はそう思いました。

佳

作



日本の文化と日本語

十二月田小学校 六年 桑野 桃香

私が世界に発信したい日本のことは日本語です。世界には様々な言語があります。その中でも日本語は世界トップクラスの習得が難しい言語と言われています。私達は普段何気なく使っています。が、日本語には語いというものがあります。同じ意味でも言いかえ方によって印象も変わります。また、敬語やオノマトペなど、日本独自の表現もあり、まさに日本の文化の繊細さを表した言語だと感じました。そして、日本語の難しさこそ日本語の魅力だと思いました。

私が日本語を知ってもらいたい理由は、日本語を知ることによって日本の文化を知ってもらいたいからです。日本語は、外国語と比べてやわらかい印象があります。母音といった音によって語感がやわらかなものになり、話し方も穏やかになるため、相手にとってききやすい音になります。

また、日本語には多様な表現があります。英語

では言い表せられないような言葉はとても魅力的です。日本語はボキャブラリーが豊かで美しい言葉が多いです。世界各国を見ても表現の多さは類い稀で世界にはこれる日本文化でもあると思います。そして、そのような美しい言葉が多い理由の一つに平仮名や片仮名、漢字といった三種類の文字があると思いました。片仮名より平仮名の方がどこかやさしい雰囲気を感じるように、平仮名や片仮名や漢字の使い方次第で様々な言葉が生まれ、相手の気持ち伝わってくる点はとてもすばらしいと思います。

日本語を知るということは日本という国の文化や礼儀、風習を広く知ることです。昔から受けつがれてきた日本語は世界的に見てもすてきな文化だと思っています。和歌や俳句などでもそうです。日本語ではたった数文字で四季おりおりの自然の美しさを伝えることができます。これは世界でもたくさん評価されていて、だからこそ世界に日本語という日本の文化を知ってもらいたいと思ったのです。

私たちは普段からこんなにも美しい唯一無二の言語にかこまれています。日本人にもそのことを

知ってほしいです。また、美しい日本語を相手への
このうげきに使っては意味がありません。日本語
という言語も、その美しさも失わないためにも私
たちは日本語を守っていかなくてはなりません。
そのためにも、日本語を美しく使えるよう、言葉
選びにも気をくばり、日本語本来のおだやかでや
わらかな言葉を使える素敵な人になれるように努
力していきたいと思いました。

私の大切な時間

十二月田小学校 六年 山澤 璃子

私の好きな時間は、ペットと遊んだり、家族と話したり、友達と遊んだりといろいろありますが、そのなかでも私にとって一番は、友達と遊ぶ、話すときです。

なぜなら、友達と話すと、自分はとても楽しい気持ちになるからです。友達と会って話して遊んで、私にとってこの時間が一番大好きで大切です。友達といっしょに過ごしていくと、いろいろなことが思い出になります。友達とはじめてあったとき、遊んだとき、ケンカしたとき、友達と過ごしているんなことがありました。悲しいこと苦しいことがあったら友達はいつも私を助けてくれました。だから、私は、そんな友達といっしょにいるとき、時間がとても大切な時間です。

私は昔、友達をつくるのが苦手でした。だからすぐに友達ができず、できても、またすぐに友達がなくなってしまうです。だからいつも一人で

いる時がおおく、そんなひとりの時間が私はきらいでした。でもクラスがえなどではじめていっしょになった子に勇気をだして話しかけてみました。するとその子はうれしそうに私とも話してくれました。私はそれがとてもうれしかったです。今でもそのときは覚えています。そしてまたクラスがえしてもその子とクラスがちがっても話にくいうになりました。私は、ひとりであるより友達に会いたい、もっと話したいという気持ちでいっぱいでした。友達は私と話するときも楽しそうに話してくれるので、私はその時間が大好きでした。でも五年生、三学期。3月くらいのとき、コロナウイルスというのがはやり、学校はしばらく休みになっていました。そのせいで私は友達と二ヶ月くらいあえませんでした。私は家にいるあいだずっと友達のことを考えました。「はやく友達に会いたい」「会っていっぱい話したい」ただそれだけをずっと思っていました。そして、六年生になり、学校にいけるようになりました。私は学校にいけるようになり、うれしかったけれど、一番うれしかったのは、友達に会えるからです。けっきょくクラスはちがったけれど、友達に会えるだけで私

はじゅうぶんうれしかったです。だから私はひさしぶりに友達に会って友達といっしょによるこびました。「ひさしぶり」「やっと学校はじまったね」「また話せてうれしいね」そんな会話をしました。まわりからしたらなにげないふつうの会話ですが、私からしたらとってもうれしくて大切な会話です。そのとき私は、友達は、私にとってすごく大切な友達と過ごした時間は私はとても大好きなんだなと強く感じました。だから私は、今を友達と過ごしている時間を大切にしたい、私は友達といっしょにいる時間が私の好きな時間です。

「宝物」

朝日西小学校 四年 大島 瑠愛

本の表紙をじっと見つめている。本を読むとなんだかおちつくし、わくわくしてとっても楽しくなります。

わたしが本を読むと楽しいときは、一人で集中しながらしずかに読むときです。一人でだれにもじやまされずに、想ぞうや気持ちを頭の中でふくらませながら読むことです。あまりにもおもしろい本だと、

「本の中に入れたら」と思うことがあります。

その中でも、ノンフィクション、れん愛の本、なぞときがとくに好きです。この後どうなるのかなとわくわくしてうずうずします。だけどノンフィクションは、かなしい内容とかあるからちよつとこわいです。本を読んでねむれなかった日もありました。だけど本は、わたしをドキドキさせてくれます。やっぱわたしは本が大好きです。

本を好きになったきっかけは、本屋さんです。

本屋さんで読みたい本を次々見ていくと、わたしが楽しい、もっと読みたい本がたくさんあり、読んで知りたいと思いました。

わたしが好きな教科は国語と道とくです。だから教科書を読むのも楽しいです。いつも、配られた時にすこし読んでしまいます。漢字辞典や国語辞典などもたくさん言葉や漢字を知り、新しく発見できるからすごくおもしろいです。わたしは、パパからもらったノンフィクションの本が、悲しい内容だけとつても勉強になりました。

わたしは、図書館や本屋さんからする不思議なおいは、たぶん「まほうのにおい」だと思います。いつも休み時間などについて見に行ってしまうす。

わたしは、大人になったら病院の先生になりたいです。そのために、えい語も読めるようになって、たくさん本を読んで勉強しなきゃいけないと思います。だから、本が好きでよかったと思います。もしかしたら神様がたくさん命を守るために好きにしてくれたのかもしれない。

わたしが命を守りたいのは、お母さんのお姉さんが、かんごしだからです。わたしは、お母さん

のお姉さんよりも、たくさん命を守りたいです。これからも、ずっともつと本を読んで読んでいっぱい本を読みます。大人になったらぜったいにた

くさんの命を守り大切にしていきたいです。

「本は、いろんな人の思いがつまった宝物です。」
「どれだけががんばってもまったく同じのは書けないからです。」

わたしは、本も命も世界で一番の「宝物」だと思います。だから本も命も大事にしていきたいです。

「あなたは、どうですか。」

「世界に伝えたい日本のこと」

戸塚南小学校 六年 東 みずほ

よく「平和」は大切だと言います。では、「平和」とは何でしょうか。私はうまく説明できないと思います、辞書を引いて調べてみました。「平和」とは戦争や災害、もめ事など心を悩ませることが何もなくておだやかな状態だそうです。

私は生まれた時からずっと戦争にあったことも大きな災害にあったこともありません。東日本大震災の時は、まだ二才でした。私は保育園の教室の真ん中に防空頭巾をかぶって友達とお母さんがむかえにきてくれるのを待っていたそうです。でも自分自身が「怖い」ということはなかったです。だから私にとって「平和」は当たり前の日常のことなのです。

今年で戦争が終わって七十五年目をむかえました。戦争というものは多くの人々が亡くなって住む家もうばわれ、食べ物もなくおそろしくて残くなくものです。私は曾祖父母や祖父母の戦中・戦後

の体験談や本、映像、新聞などの資料から「戦争は絶対にしてはいけない」そして二度とくり返してはいけないということを学びました。

日本は戦争中、八月六日に人類史上初の原爆を広島に、八月九日に二回目の核攻撃を受けました。落とされた時は強烈な爆風と熱線によって、一しゅんにして多くの人が命を落とし、町はこわされて何もなくなってしまうました。それはまるで地ごくのような光景だったそうです。

日本は世界の中で唯一の原爆の被爆国です。だからこそ戦争の経験がない私たちは将来、子供たちのために自分の曾祖父母や祖父母の体験や資料から学んだことを語りついで伝えていかなければならないと思います。

先日、私は新聞で戦争中にオリンピックが中止になり、多くの日本の選手が兵士として戦場に行つて戦死してしまつたことを知りました。戦争が終わつたらまた自分たちの競技にもどることを信じていましたが、夢はかなわなかったのです。もし生きていけば一流の選手として活やくできたのに、と私は悔しく残念に思いました。平和な社会であつてこそスポーツを楽しむことができるので

す。平和であることのありがたさを感じながら、そして戦争で亡くなった多くの選手たちに思いをはせながら、来年東京で開さいされるオリンピックを観戦したいと思います。

私は「平和」を失ったことはありません。大きな自然災害は人間の力ではありません。しかし「戦争」は私達一人一人が平和を願って努力をすれば決して起こすことはないと思います。だから私は「戦争」をしてはいけない、また同じことをくり返してはいけないということを将来も伝えていかなければいけないし、努力して平和な社会を守っていかなければならないと思います。

私の大切な時間

里小学校 四年 常陸 遥香

私は、一日の最後自分がねむる時間の前にまどをあけ、つめたい夜の空気が家の中に入って、まどから上を見上げて星を見る時間が一番いやされるから好きだ。

星を見ていると最初は少ししか見えなかったのに目がなれてくるとたくさん星々が見えてくる。私はその星を見ると一日のつかれもふきとぶような感じになる。

私はなぜそんなにも星が好きかというと、星にはひきこまれるものがあるからだ。星は昔の人も地図代わりに使っていて、星をたよりに海へ旅に出た人もいる。それを私は聞いたときにほとんど星の事が知りたくなってきた。そして、星は何百年、何千年という生きてきた星もいれば、何十年かで失くなる星もある。昔の人は星と星をつないで星さも作ったり、人類が発てんして行くと、もつと星を見えるようにするために大型の望遠鏡を

作る人もでてきた。私は星の事を知ったり聞いたりとすると、

「もつといろいろ知りたい。」

と思うようになった。

だから私は旅行の時も、夜の屋上へ行つて、星空の説明やいつもは街の明かりで見えない星をさがしたりしている。たまに夕食を食べ終わって、まだ夕焼けの空をハンモックに乗って上を見上げ少しづつ星が出てくるのを見ていると一つ一つの星がかがやいて見えてくる。いつのまにか、空は夜の黒になっていて、星がたくさんかがやいていた。

私は、星を見ているとたまに

「他の星にも地球のようにめぐまれている星はあるのかな。」

と思う時がある。地球は、とてもめぐまれている星なので、他の星にも地球のような星があるなら私はその星に行つて地球とどんな所が違うのか、住んでいる人はうちゅう人なのか、人がたなのかなどをいろいろと知ってみたいと思った。

そして地球はほかの星から見るとどのように見えるのかも知りたい事だ。星は表面の温度で青や赤

色になるから、地球は春夏秋冬で気温が変わるから赤になったり青になったりするののかも知ってみたい。

このように、星にはたくさんまだ私が知らない事などもある。

私は自分が大人になったら山や海などを友達や家族などの人と行ってたくさん星の星空を見て、日本国内だけでなく世界の星空を見て北や南、東、西などで南十じ星などの日本では見る事のできない星ざや星空を見に行etteたくさん星を見たいと思っています。その時に人類がもっと発てんしていたら大きな望遠鏡で星をもっと近くで見てみたい。

私のゆめの一つはどこで働きたいかだが、もう一つは外国の星空を見る事だから、その前にもつと星の事を知っておきたい。

マラソンは苦しいだけじゃない

里小学校 六年 村岡 花

私が幸せな時間は、マラソンをしている時です。けれど、周りの人は、マラソンはきついし、楽しくない。とマラソンの良さを分かってくれませんか。だけどマラソンには、良い所がたくさんあります。そこで私の幸せの時間。「マラソン」について紹介します。

正直私も「マラソン」は苦しいし、苦手でした。だけど大橋君のおかげで「マラソン」は私の幸せな時間になりました。大橋君は一年生から五年生まで「マラソン」大会で、全一位と言う結果を残しています。でも私はどんなに努力しても一位をとることができませんでした。だから何度も諦めようと思ったけれど、大橋君の目標を聞いてから、私は「マラソン」をしたいと思えるようになりしました。私の目標はいつも一位になる事、順位が目標でした。しかし大橋君の目標は、常にタイムで新記録を出す事でした。私も新記録を出す

事を目標に変えていきました。目標を変えてから、もっと練習してタイムを上げていきたいと思えるようになり、「マラソン」を好きになりました。それから、練習していくうちに、私は「マラソン」の良さに気づきました。

1つ目の良さは、自分の弱さに気づくことができます。「マラソン」は常に、自分との戦いです。自分に弱ければ、すぐに苦しくなって止まってしまふ。でも自分の弱さに気づき強くなれば、「マラソン」で勝つことができます。

2つ目の良さは、改めて自分に何がたりないのかを考えたり、相手の良い所に気づくことができます。負けてしまった時は悔しいけど自分の練習を振り返る機会になり、相手の作戦や走り方の良さを見つけられる良い機会になります。負けて悔しいで終わるのではなく次にどうしたら勝てるのかを考えられるようになります。

3つ目は、ゴールした時の達成感を味わうことができます。走っている時は、とても苦しいし、止まりたいなと思ってしまうても自分にできる限りの力を出してゴールした時すごく、達成感を感じるすることができます。そして、結果が自分にとつ

て良くても悪くても努力した分だけ、「マラソン」はゴールした時に達成感を味わうことができます。

「マラソン」には今紹介した良い所の他にもたくさん良い所があります。私のように初めは、「マラソン」なんかつまらないと思っている人もたくさん居ると思います。だけど私は大橋君をきっかけに、「マラソン」は苦しいだけじゃない。良い所もたくさんあると思うことに気づけました。みなさんも私のように「マラソン」に対する気持ちが変わってくれたらうれしいです。

これから「マラソン」をして、私が尊敬している大橋君に少しでも近づけるように、苦しくて目標に向かって努力します。みんなにも「マラソン」の良さに気づいてもらいたいです。

夏休み明けの日常

南鳩ヶ谷小学校 六年 山田 琉愛

私の好きな時間っていつだろう。なかなか思いうかばない。それなら、その日常全てが好きな時間なのではないだろうか。

朝、六時半に起きお父さんと犬の散歩へ。たまにねぼうして出られることもあるが、お父さんは待っていてくれる。一緒に家を出て、何気ない会話をしながら歩く。朝の空気はなんとなくすがすがしい気もするし、家族と過ごせる大切な時間だ。

「いつてきます。」と家を出て、通学班の集合場所へ。私の班は、学年がみんなちがうのにビックリするほど仲が良い。班長で先頭を歩いていると、班員たちの楽しい会話が聞こえてくる。唯一他の学年と話せる時間だ。

「解散ー。」と班員に言い、教室へ向かう。教室に着き、「おはよう」と言うと、友達も「おはよう」と言ってくれる。友達が「おはよう」を言えば私

も「おはよう」と返す。そして色々な話をする。これも毎日の日常だ。こういうときに、話してくれる友達がいる。友達がいてよかったなと思う一つだ。

授業は大変だけど、班の人と共有する時間は楽しいと思う。今はコロナウイルスで共有したりできないけれど、早くできるようになってほしい。二十分休みや昼休みは、別のクラスの友達とも遊ぶ。最近は鉄棒にすわって話をしたり、絵しりとりをするのにハマっている。授業が終わるまで「あと何分？」とつい楽しいмиになつてしまう。放課後になり、家で宿題をして、習い事をする。習い事の中でも週に一回のスイミングが一番の楽しみだ。今はバタフライの練習をしているが、息つきがむずかしい。できないことを練習するのは大変だし、無理だと前は思っていたけれど、今は、できないことをやるって良いかもしれない、思っている。学校とはちがう楽しさがあり、新鮮だからだ。

習い事が終わり、家に帰って、お風呂に入りごはんを食べ、歯みがきをして、ねる。やっぱり家にいるとつかれが取れるような気がする。家って

すごい。家族ってすごい。家にいるとこんなことを感じることもできる。

今までは、自分の好きな時間っていつだろうと
思っていたけれど、何気ない毎日の日常が「私の
好きな時間」なんだなと思った。一つに限定して
「この時間が一番好き」ではなく、「日常の全部が
好き」でも好きな時間として充分だと思う。

一番大切なこと

東中学校 二年 芝塚 千珠

昨今の世の中は、新型コロナウイルスにより、パニックに陥っている。

その中で生まれた「新しい生活様式」、新しい生活様式の実践例としては、感染防止の三つの基本と言われる「身体的距離の確保」「マスクの着用」「手洗い」などがある。これらは、コロナ禍の日本では「マナー」とされ、また「そうすることが当然である」という風潮になっている。

最近様々なメディアにより、マスクが着用できない人達がいることを知った。そこでこのコロナウイルスによって当たり前となった「マスクの着用」のマナーについて考えてみようと思う。

私は通学や学校生活の中、また買い物に出かけるときなどにマスクを着用している。マスクをすることは飛沫感染を防ぐことに有効とされている。もし、自分がコロナウイルスに感染していた場合、それを周りの人達にうつすのを防いでくれること

にもなるといわれている。だから、私は当たり前
にマスクを着用している。また、そのマスクを着
用することに対して多少息苦しいと思うことはあ
るが、特に問題なく着用することができている。

マスクを着用することができない人たちは例
えば、身体的な障がいを持つ人であったり、妊婦
さん、または持病を持つ人であったり様々な人が
いると聞いた。また、知的障がいを持つ人もその
障がいの特性により、着用できない人もいるそう
だ。

ここで問題なのは、この何らかの理由により、
マスクの着用が困難な人たちに対して、マスクを
着用しないことは常識と指を差し糾弾する人た
ちがいるということだ。

身体障がい者や妊婦さんは見た目で分かるこ
ともあり、マスクの着用が困難である理由を考え
られるかもしれない。しかし、見た目では分かり
にくい障がいや持病がある人、その他に事情があ
る人は、マスクの着用はマナーだと叫ぶ人達の心
ない行動や誹謗中傷により、辛い思いをしている
という。

私はこのコロナウイルスによってマスクの着

用が「マナー」とされるまで、マスクの着用ができる人とできない人がいることを知ることになった。知らないことで、例えば身近な人がマスクの着用ができない事情があつたとしても、なぜマスクの着用をしないのかと責めてしまつていたかもしれない。

このコロナ禍と言われている世の中で、私の生活も大きく変わった。当たり前前にできていたこともできなくなり、ストレスを感じることも多くなつた。マスクの着用もこの暑い時期にはとても苦しいと感じる。だが、それを私だつて我慢して着用しているのに、なぜあなたは着用しないのかと、その人の背景も知らずに問うことは「マナー違反」ではないかと気付いた。

これまでに経験したことのないこの事態の中で成り立つた「新しい生活様式」は、マスクの着用のみならず、例えばアルコール消毒なども皮膚に疾患を持つ人やアレルギーを持つ人にはできないという。誰もが当たり前に行うことができることではないということが、もつと広がってほしいと思つた。

ルールを守ることがマナーではなく、人を

思いやる気持ちこそが、いつの時も一番のマナーなのではないかと、私は思う。

辛い時こそ

南中学校 二年 上原 咲希

「思い通りにならないとき、本当の自分が見えてくる」。

部活動で、顧問の先生が、私達にかけてくださった言葉です。

平成二十三年三月十一日。その日の出来事の悲慘さを忘れてはいけない。後世に語り続けなくてはいけない。そういった声を挙げている人をテレビなどで見たことがあります。自然災害とは少し変わってきませんが、戦争、原爆、事故などを体験した方々のそのような訴えも、何度も見聞きします。それは、苦しむ人々がもういなくなるように、平和が続くように、といった願いが込められていると、深く心に伝わってきます。また、何より、かけがえのない命を落とさないための訴えであると思います。自然災害において、私も後世に語るべき事があると思います。それは、私たちの国、「日本」の人々の素晴らしい助け合いや、あたた

かな行動です。

「ツイッターでの感動したつぶやきまとめ」。

私はこの動画を、見て良かったなと思いました。日本が好きになりました。それが理由です。勝手な考えではありますが、集団行動を重視する文化や、他国と比べて、固い国という感じがする社会が、私は少し苦手でした。他国と比べるのはよくないですが、今までの私はそう思っていました。自由かつ、笑顔あふれる国を夢みていました。きっと、遠くを見ていたのだと思います。なぜなら、そのような国は、私の居る場所からです。そう気づかされたその動画の内容は、東日本大震災にみまわれた多くの方々が、エスエヌエスにアップした、人々のあたたかい行動や、勇気の出る言葉の数々をまとめたものでした。私は、とても感銘を受けました。それは、私が当時の状況を覚えていなかったのもあると思います。ですが、多くの機会で悲惨な姿の住宅や震災被害者の方々の体験を見たり、聞いたりしてきました。それは、テレビに報道して下さった方や、辛い状況でも、そのような報道に出てくださった被害者の方、また、あらゆる形で、その日のことや、その後を伝えて

くれた方々がいたからです。そしてまた、この動
画を通して私の知らなかった人々の助け合いが目
に見えました。一回の青信号で一台しか前に進め
ない状況でもゆずりあう沢山の車、大変な状況の
中、自分のお店の商品を町の人々に振る舞う人、
自分に出来ることを考えている若者、駅員さんに
電車を走らせてくれた感謝を伝える子、混雑する
駅のホームでも列を崩さず、通路をあけている
人々、自衛隊の並ならぬ努力など、まだまだあり
ました。こんなにもあたたかな日本の人々に、言
葉が出ませんでした。

「思い通りにならない時、本当の自分が見えて
くる」私は先生のおっしゃった言葉と、このあた
たかい行動を照らし合わせました。思い通りにい
かない時、辛い時、苦しい時、日本の人々のあた
たかい行動が見えたのだと思いました。それは、
優しさにあふれた日本の人々の姿です。

地震が起こり、町が破壊され、津波が襲い、ま
た停電になった時、社会はほうっておいても今ま
でのようには戻ってくれません。そう、誰かが努
力をしてくれているのです。誰もが心が不安定で
あろうなか、幸せを取り戻すために、頑張ってい

たのです。その時に、助け合うという行動をとれ
たのは日本だからだと思います。私の心に響いた
つぶやきが動画にあります。

「地球最悪の地震が、世界で一番準備され訓練さ
れた国を襲った」。

悲惨な状況の中であのような行動をとるには、日
頃から決まりを守ったりあたたかな気持ちを持つ
ことが、やはり大切なのだと分かりました。地球
最悪の地震に立ち向かった日本を、日本人を、私
は誇りに思いました。そして私は、その事を忘れ
ず、行動していきます。

「助け合い」の形

青木中学校 三年 菊地 優太

「助け合い」

この言葉を聞いて、どんなことを思い浮かべるだろうか。私は、地震や火災などの災害が起きたとき、よくニュースでこの言葉を耳にする。そんな「助け合い」の真意とは、いったいなんなのだろうか。

私は、「助け合い」にもいくつか種類があると思っている。辞書で「助け合い」と調べてみても「互いに力を出し合うこと」と抽象的に書かれているだけだ。しかし、助け合いは人と人の間で行われることだから、同じ助け合いという言葉で表されても、その状況、人などによって、その「助け合い」の形は変わってくる。

その一つ一つの「助け合い」の形を知るために、災害時の助け合いについて考えていきたい。災害が起こってしまうと、被災地に住んでいた人が家を失ってしまったら、避難所での生活を余儀なく

されてしまうといったことが起きる。その時に必要なことが、「助け合い」である。この「助け合い」には、主に二つの「助け合い」がある。一つ目は同じ境遇の人どうしで助け合うこと、二つ目はボランティアなど、違う境遇の人が互いに助け合うことである。

一つ目の、同じ境遇の人どうしで助け合うことは、共に希望へと歩んでゆくことだと思う。災害によって多くの物を失ってしまった人どうしで、気持ちを打ち明け、前向きに進めるような心の支えとなることや、自分が持っているものを分けたり、分けてもらったりすること。同じ境遇の人にしか分からない相手の気持ちを考え、支え合っていくことが同じ境遇に立った人たちの間の「助け合い」なのだと思う。

次に、違う境遇の人が互いに助け合うとはどういうことだろうか。被災地へ行くと、他県の方々がボランティアに来ている光景をニュースなどで見たことがある人が多いだろう。災害時に被災地を支援する人がいて、その後何らかの形で支援してくれていた人を、支援を受けていた側が助ける。それによって、境遇が違う人どうしの「助け合い」

が生まれる。

このように、「助け合い」には同じ境遇の人どうしの助け合いと、違う境遇の人どうしの助け合いがある。しかし大切なのは災害で支援してくれた方々に感謝を忘れないこと、自分と同じ境遇に立っている人がいた場合、その人と気持ちを共有し共に支え合っていくことである。また自分が被災者ではなくボランティアになった場合では、被災者の気持ちに寄り添うことが必要である。

「助け合い」

この一つの言葉の中にはいろいろな意味がこめられている。私たちは、その時々にも最も適した「助け合い」を見つける力をつけ、災害時に全ての人が前向きに歩めるようにしていかなければならない。そのためには、いろいろなことを経験して、相手の気持ちに寄り添ったり自分の気持ちを伝えられるような心を持つことが必要である。そうすればきつと、この社会は「助け合い」にあふれた素晴らしいものとなるだろう。

発行

川口市青少年保護育成本部事務局
川口市役所子ども部青少年対策室
川口市青木 2-1-1 (第二庁舎 3 階)
電話 048-258-1115